

月刊 響都
2022 February



気を付けてね！ ホールでの過ごし方

- 携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
- 演奏中は話さないで静かに聴きましょう！
周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- 録音・録画、写真撮影は禁止です。

2022
2/11

Promenade Concert

プロムナードコンサート No.395

指揮／ジョン・アクセルロッド

ヴァイオリン／富田 心

チャイコフスキー：歌劇『エフゲニー・オネーギン』より
「ポロネーズ」(5分)

グラスノフ：ヴァイオリン協奏曲 イ短調 op.82 (20分)

チャイコフスキー：交響曲第4番 ヘ短調 op.36 (44分)

東京都交響楽団

PROGRAM NOTE

今日のコンサートでは、2人のロシアの作曲家による曲を聴いてもらいます。ロシアといえば広大な北の大地。冬は大変寒さの厳しい国です。そんなロシアの人々が作る音楽には、どこか温かさや情熱が感じられ、力強さもあります。本日登場するチャイコフスキーとグラズノフは親子ほどの年齢差はありますが、どちらも30代の終わり頃、作曲家として充実した時期に書かれた作品です。

チャイコフスキー：歌劇『エフゲニー・オネーギン』より「ポロネーズ」

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー（1840-93）はロシアのサンクトペテルブルクという都市に誕生した音楽院に第一期生として入学し、専門的な音楽教育を受けた人です。ロシアにおけるプロの作曲家第1号と言ってもよいでしょう（それまでにも、ロシアには優れた作曲家はいましたが、みな軍人や化学者など、音楽とは別の仕事もしていたのです）。チャイコフスキーといえば、バレエ音楽「くるみ割り人形」や「白鳥の湖」なども有名です。



歌劇『エフゲニー・オネーギン』は、チャイコフスキーが作ったオペラの5作目で、1878年2月、38歳の時に完成しました。主人公オネーギンに、田舎の文学少女タチヤーナが恋心を抱きます。オネーギンはまったく彼女に振り向かず、その妹オリガをめぐってオリガの恋人と決闘し、銃殺してしまいます。数年後、美しい公爵夫人へと成長したタチヤーナに、今度はオネーギンが惹かれますが、大人になった2人はついに結ばれず……という物語。演奏される「ポロネーズ」は、オネーギンとタチヤーナが再会する舞踏会で、人々が優雅に踊るシーンの音楽です。

グラズノフ：ヴァイオリン協奏曲 イ短調 op.82

協奏曲とは、独奏者（ソリストとも言います）とオーケストラとが時に対話をするように、時に一体となって演奏する作品のことです。この曲の作曲者であるアレクサンドル・グラズノフ（1865～1936）は、先ほどのチャイコフスキーよりも一世代若い作曲家（25歳年下）です。一般的にはチャイコフスキーほどは名前が知られていないかもしれませんが、ロシアでは尊敬を集めた優れた作曲家です。11歳で作曲を始め、16歳で最初の交響曲（オーケストラのための規模の大きな作品）を作ったそうです。ヴァイオリン協奏曲は彼の代表作で、39歳となる1904年に作られました。



協奏曲はふつう第1楽章、第2楽章……といくつかの楽章で構成されますが、この作品は分かれていません。冒頭からロマンティックで哀愁のあるメロディーを独奏ヴァイオリンが歌うように奏で、オーケストラの響きが厚みを与えます。途中から穏やかで明るい曲想となります。ソリストの腕の見せ所といえる独奏部分（「カデンツァ」と呼ばれます）を経て、華やかなフィナーレへと続きます。


チャイコフスキー：交響曲第4番 ヘ短調 op.36

チャイコフスキーの交響曲第4番は、先ほどの歌劇『エフゲニー・オネーギン』と並行して作られました。当時チャイコフスキーは、彼の熱烈なファンだった女性と結婚をしたのですが、その生活は長くは続きませんでした。離婚で傷ついたチャイコフスキーを慰めてくれたのは、温かな手紙を通じて、また金銭的なサポートでも支えてくれたフォン・メック夫人という人です。2人は「実際には会うことはしない」約束のもと、文通によって音楽や自然や人生について語らい、深い愛情関係を築いていきました。1878年2月にモスクワで初演されたこの交響曲第4番を、チャイコフスキーはメック夫人に捧げ、「私たちの交響曲」と呼びました。



フォン・メック夫人

第1楽章はホルン  とファゴット  による力強いファンファーレで開始します。チャイコフスキーはこれを「宿命の動機」と呼びました。

第2楽章はオーボエ  が哀愁に満ちたメロディーを奏で、弦楽器がそれに応答します。**第3楽章**は弦楽器のピッツィカート（弦を指で弾く奏法）の主部に続き、木管楽器の舞曲、そして金管楽器がリードする行進曲が続きます。急速なテンポで華やかに開始する**第4楽章**にはロシア民謡に基づくメロディーも現れます。そして終盤で再び第1楽章の「宿命の動機」が顔を出します。「このように人生は、憂鬱な現実とはかない夢とが絶えず交代するのです」とチャイコフスキーは述べています。

文／飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

指揮 ジョン・アクセルロッド



©Stefano Bottesi

スイスのルツェルン、フランスのロワール、イタリアのミラノ、スペインのセビリヤのオーケストラの監督職を歴任。現在は京都市交響楽団の首席客演指揮者。これまでに150以上の世界各地のオーケストラに客演を重ねている。パリ・シャトレ座、ミラノ・スカラ座などでオペラ公演も指揮。現代作品にも積極的に取り組んでいる。アメリカのヒューストン出身。ハーヴァード大学を卒業、レナード・バーンスタインとイリヤ・ムーシンに指揮を学んだ。都響とは2021年12月に初共演、今回が2度目の登壇となる。

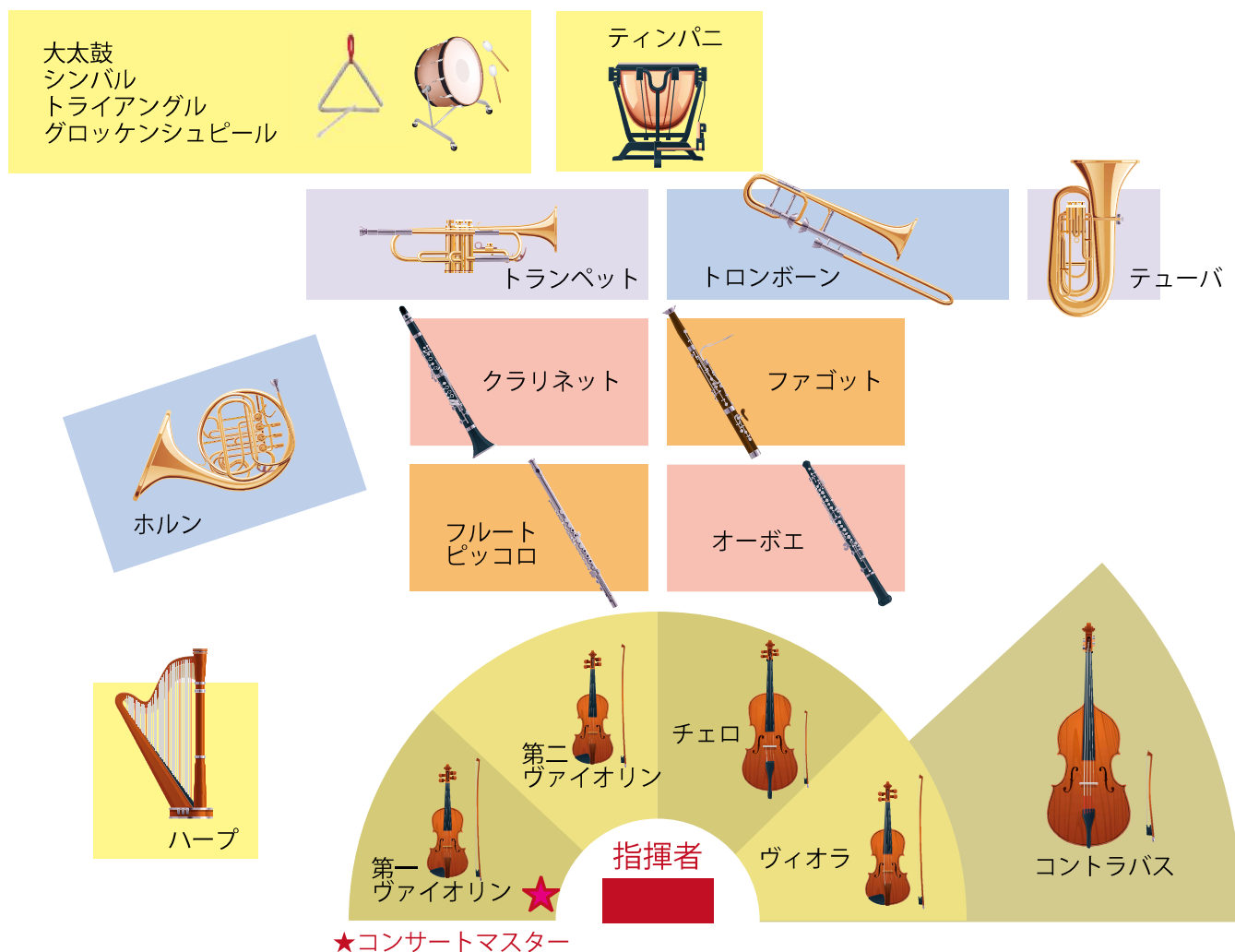
ヴァイオリン 富田 心



2002年生まれ。生後6ヵ月で渡英、4歳よりヴァイオリンを始める。2019年ウィーン国際音楽コンクール、ベルリン国際音楽コンクールにおいて共に金賞受賞。BBC ヤング・ミュージシャン 2020 弦楽器部門優勝。10歳でデビュー以来、ウィグモア・ホールをはじめ欧米各国でソロや室内楽のコンサートを行う。オーケストラとの共演も多い。名門ユードイ・メニューイン音楽学校に英国政府奨学生として入学、2021年よりハンス・アイスラー音楽大学（ベルリン）にてコリヤ・ブラッハーに師事。2022年2月、英レーベル Orchid Classics よりデビュー・アルバム《ORIGINS》をリリース。

オーケストラ配置図（2月11日 プロムナードコンサートNo.395）

演奏する曲によって使わない楽器もあります。
どの曲にどの楽器が使われているかにも注目してね。



TMSO 東京都交響楽団

東京オリンピックの記念事業として
1965年に東京都が設立しました。
都響（ときょう）という愛称で親しま
れています。

上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術
劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、
交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』など
ゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、
病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。

2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、
「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。

